



松井永子
併任講師

花粉などの抗原が入ってくると、それらを排除します。この反応が過剰となり、体の機能に影響を与えることをアレルギー反応といいます。アレルギー疾患は、頻度の高い

疾患で、現在、本邦の 30

% の人が何らかのアレルギー疾患を持ち、70 % の人が素因を持つと報告されています。

大学はいま

研究室から

アレルギー疾患が発症するには、いくつかの要素が必要ですが、そのうちの一つは遺伝的要因です。つまり、身内にアレルギー疾患を持つ場合には、前者の方が発症率は高くなり、アレルギー疾患を持つ場合と

アレルギー疾患の遺伝的背景

アレルギー遺伝子診断キットを開発

について研究をすすめ、その臨床応用として遺伝子によりアレルギー素因を判別するキット（アレルギー遺伝子診断キット）を開発しています。発症前に症状を予測できれば、事前に環境を整えることで発症を予防することができます。また、発症後の患者さんにとって、病因を的確にとらえることで、治療薬を選ぶ（オーダーメード医療）際の根拠になります。今後も遺伝生物学として、このような研究を進め、臨床応用していくことを考えていました。（岐阜大学大学院医学系研究科分子・構造学講座遺伝発生学分野併任講師 松井永子）